

第2回 定例研修会

尾関雅彦教授(昭和大学歯学部インプラント歯科学講座)による特別講演 『低侵襲インプラント —患者さんに喜ばれる包括的診療—』 セレクトドクター テーマ 低侵襲

日時：令和元年10月6日(日)

場所：都市センターホテル 601号室

講師：尾関 雅彦先生

セレクトドクターシンポジスト：津川 順一先生、尾崎 哲英先生、岡 昌由記先生



熱田 亙 (東京都)



10月6日は都市センターホテルに於いて、第2回定例研修会が開催されました。

10時から田中会長に挨拶をいただき、会員発表は3題の演題が発表されました。座長は百瀬康仁先生が担当しました。

熊谷 博太郎先生

「下顎臼歯部遊離端欠損にインプラント治療および遊離歯肉移植を行った1症例」

笛木 貴先生

「歯牙破折処置後10年予後症例について」

酒井 崇充先生

「上顎第一小臼歯中間欠損に対してインプラント治療を行った1症例」

今回、会員発表された先生方は、素晴らしい症例をご提示いただきましたが、定例研修会では相談症例として発表ができます。当会では発表を行なった会員が認定会員として認定され、専修医・専門医の受験資格に必要となりますが、全員発表会では敷居が高いと感じたり、これからインプラントを勉強していきたい、ケースがなかなかつけないという会員もぜひ定例研修会へご相談をお寄せください。

定例委員でも親身にご対応いたします。(ご連絡は本部までお願いいたします。)

さて、定例研修会のひとつの目玉として、大きく評価いただいているセレクトドクターによるシンポジウムですが、今回は、特別講演のテーマに合わせ、低侵襲として、以下3名の先生方に御登壇いただきました。

津川 順一先生

『ソケットプリザーベーションを成功に導くための炭酸ガスレーザーテクニック』

尾崎 哲英先生

『ISPDによる低侵襲治療～長期的結果を求めて～』

岡 昌由記先生

『低侵襲かつ審美的 前歯インプラントの長期的安定の要素』

津川先生は口腔外科出身、尾崎先生ならびに岡先生はJIADSで、みなさん、大きい外科処置を得意としているイメージが強いですが、先日の全員発表会でのご発表を拝聴していても、少しでも患者の負担を減らさずべく工夫をされているように感じ、今回の講演をご依頼させていただきました。

その期待を遥かに超える素晴らしい内容でした。

津川先生はインストラクターも務めているCO2レーザーの利用法について(これは後の特別講演で、尾関教授も利用されました)、尾崎先生はシビア

第2回 定例研修会



な症例へインプラントオーバーデンチャーでの対応、岡先生はCTGを多く安全に採集する方法について、症例を交え、ご講演いただきました。

そして、午後は、尾関雅彦教授(昭和大学歯学部インプラント歯科学講座)による特別講演『低侵襲インプラント 一患者さんに喜ばれる包括的診療』を拝聴いたしました。尾関教授は、東京医科歯科大学をご卒業後、口腔病理学へ入り、その後、昭和大学で補綴学講座、インプラント歯科学講座と移籍され教授となられた経歴をお持ちとなります。口腔病理学へ入局された理由も口腔外科志望だったからとのことで、補綴出身のインプラント科教授からはかけ離れた、大掛かりな外科症例も多数ご提示いただき、ま

た病理学からの観点でインプラント学をご解説いただきました。ただ、術後の患者の大変さを経験され、オリンピック法(サイナスリフト法)を代表とする低侵襲への創意工夫に至るようになったとのことでした。

尾関教授には朝から懇親会まで、終日ご参加いただき、貴重なご意見を賜ることもできました。

今回の定例研修会は、インプラント治療では避けて通れない外科処置をいかに患者にとって受け入れやすくするかについて意識をし、工夫することの重要性を認識することができました。

ご講演いただきました皆様、ありがとうございました。